

切手に描かれた動物の展示, およびその付帯事業の実践例

山内 健生^{1)*}・高見 咲恵²⁾・廣田 編子²⁾

Exhibition of animals as depicted on postage stamps, and a practice of related events

Takeo YAMAUCHI^{1)*}, Sae TAKAMI²⁾ and Amiko HIROTA²⁾

要 旨

2016年4月23日から7月31日まで、三田市有馬富士自然学習センターにおいて、ミニ企画展「切手のいきもの」を開催した。このミニ企画展では、切手に描かれた動物20種（ホネガイ、スイジガイ、カブトガニ、スベスベマンジュウガニ、キバネツノトンボ、マイマイカブリ、ギフチョウ、アカエリトリバネアゲハ、ツマベニチョウ、オオムラサキ、モリアオガエル、ホトトギス、マガン、コウノトリ、ニホンザル、ネズミ類、ニホンカワウソ、ヨーロッパアナグマ、ニホンジカ）について、実物の標本、それらの動物を描いた切手25枚の拡大写真、および関連する絵本を展示した。展示された1種の動物につき、300～400字程度の解説文をつけた。この展示の付帯事業として、子供向けに「カブトガニのお面を作ろう!」と「オリジナル切手をデザインしよう」を実施した。本報告では、これらの概要を述べる。

キーワード: 郵便切手, 動物, 標本, 絵本, 展示, 付帯事業

(2016年7月31日受付, 2016年11月16日受理)

はじめに

郵便切手とは、郵便料金を支払ったことを証明するために郵便物に貼られる証紙の名称である。しかしながら、単なる証紙としての役割を超えて、切手の印面にはさまざまな美しい色彩やデザインがみられることから、切手を小さな芸術品と見なすことができる(NHK「美の壺」制作班, 2009)。切手の図案はきわめて多様であり、動物が描かれたものも多い。動物が描かれた切手の種類数は、1997年の時点で7万点以上に達するほどであっ

た(功力, 1997)。そのため、切手は動物学関連分野の教材としても利用可能であり、自然史博物館等において、描かれた動物と切手を同時に展示する試みがなされた例もある(例えば、2009年の伊丹市昆虫館のミニ展示「切手になった昆虫たち」、千葉県立中央博物館分館海の博物館のトピック展示「切手にみるフグ目魚類」)。

三田市有馬富士自然学習センター(以下、自然学習センター)では、年間4回のミニ企画展をつよしくんの研究室(展示室5)で実施している。2016年4月23日から7月31日までの3ヶ月余りの期間は、つよしく

¹⁾ 兵庫県立大学自然・環境科学研究所/兵庫県立人と自然の博物館 〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘6丁目
Institute of Natural and Environmental Sciences, University of Hyogo / Museum of Nature and Human Activities,
Hyogo, Yayoigaoka 6, Sanda, Hyogo, 669-1546 Japan

²⁾ 三田市有馬富士自然学習センター 〒669-1313 三田市福島1091-2
Sanda Municipal Arimafuji Nature Learning Center, Fukushima 1091-2, Sanda, Hyogo, 669-1313 Japan

* Corresponding author, yamauchi@hitohaku.jp

んの研究室において、ミニ企画展「切手のいきもの」を開催した。このミニ企画展では、切手に登場する様々な動物を標本と共に紹介した。前述したように、描かれた動物と切手を同時に展示する試みは、過去にも例がある。しかし、その詳細な内容が紙面に記録されたことはなかった。そこで、本稿では、ミニ企画展「切手のいきもの」の実施記録として、その詳細を報告する。

実施概要

【企画名】

ミニ企画展「切手のいきもの」

【日時】

前期

2016年4月23日(土)～6月12日(日)

後期

2016年6月18日(土)～7月31日(日)

開館時間

9:00～17:00(夏休み期間中は18:00まで)

休館日

月曜日

【場所】

自然学習センターの展示室5「つよしくんの研究室」(面積20㎡)

【展示期間中の入館者数】

35,007名

【実施スケジュール】

準備期間 2016年3月～4月

設営 4月19日(火)～22日(金)

実施 4月23日(土)～6月12日(日)

撤収 6月14日(火)

設営 6月15日(水)～17日(金)

実施 6月18日(土)～7月31日(日)

撤収 8月2日(火)

【企画の趣旨】

「いきもの」をモチーフとした切手と共に、関連する動物標本、絵本などを展示することで、小さな子供から大人まで楽しめる、「切手のいきもの」の世界を紹介する。このミニ企画展は切手を題材としているが、切手好きにもそうでない人にも楽しんでいただきたいという考えに基づいて作成されたものである。

広報活動

主としてポスターの掲示と、このポスターをA4サイズに印刷したチラシの配布を行なった。ポスターを掲示した三田市内の公共施設13ヶ所(公民館及び市民セン

ターなど)に、チラシも30～50部ずつ配布した。

2016年4月26日に展示会場にて著者の1人である廣田が神戸新聞社の記者による取材に対応した。この時の取材内容を基にして書かれた記事が同年5月5日の神戸新聞26面(地域版三田)に掲載された。

展示用パネルの作製

今回は、展示スペースの制約から、合計で20種の動物を展示で扱うこととし、切手の図案や発行された背景などに興味深いエピソードのある切手を展示用に選定した。具体的には、以下の20種の動物が図案として用いられた切手を選んだ: ホネガイ *Murex pecten*, スイジガイ *Harpago chiragra*, カブトガニ *Tachypleus tridentatus*, スベスベマンジュウガニ *Atergatis floridus*, キバネツノトンボ *Ascalaphus ramburi*, マイマイカブリ *Damaster blaptoides*, ギフチョウ *Luehdorfia japonica*, アカエリトリバネアゲハ *Trogonoptera brookiana*, ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe*, オオムラサキ *Sasakia charonda*, モリアオガエル *Rhacophorus arboreus*, ホトトギス *Cuculus poliocephalus*, マガン *Anser albifrons*, コウノトリ *Ciconia boyciana*, ニホンザル *Macaca fuscata*, ネズミ類, ニホンカワウソ *Lutra nippon*, ヨーロッパアナグマ *Meles meles*, ニホンジカ *Cervus nippon*, イノシシ *Sus scrofa*。これらの動物を分類群ごとに分けると、貝類2種、カブトガニ類1種、甲殻類1種、昆虫類6種、両生類1種、鳥類3種、哺乳類6種であった。扱った動物が昆虫類と哺乳類に偏ってしまったが、これは動物切手には昆虫、鳥類、哺乳類が描かれたものが特に多い(功力, 1997)ことに起因する。なお、選定されたすべての切手(25枚)は、著者の1人である山内が私的に収集した切手コレクションの一部である。

選出した切手の画像データを、スキャナー(Canon MP540)を用いてパソコンへ読み込んだ。読み込んだ画像データは、写真編集ソフト(Adobe Photoshop)を用いてトリミングし、JPEG画像として保存した。また、選出した動物と切手に関する解説文を動物1種につき300～400文字程度作成した。解説文には、切手の発行国・地域名と発行年を必ず記し、切手に描かれた動物の分類・分布・生態、切手の印刷方法、さらに切手が発行された背景などを記述した。また、切手の図案が芸術作品に由来している場合には、その芸術作品や作者に関するエピソードも記述した。解説文には小学校3年生までに習う漢字を用い、必要に応じて漢字にルビをふった。漢字のチェックには、「オレンジ工房 ORANGE-FACTORY」のwebsite内にある「小学

校で習う漢字チェックツール」<http://orange-factory.com/tool/kanjicheck.html> を利用した。

グラフィックデザインソフト (Adobe Illustrator) を用いて、切手の拡大写真と説明文を、下地がベージュ色の A3 縦構図に適切に配置し、PDF データを作成した (図 1)。これをプリンターで出力し、展示什器 (47 × 35cm) に格納し、合計 20 枚の展示用パネルを作成した。

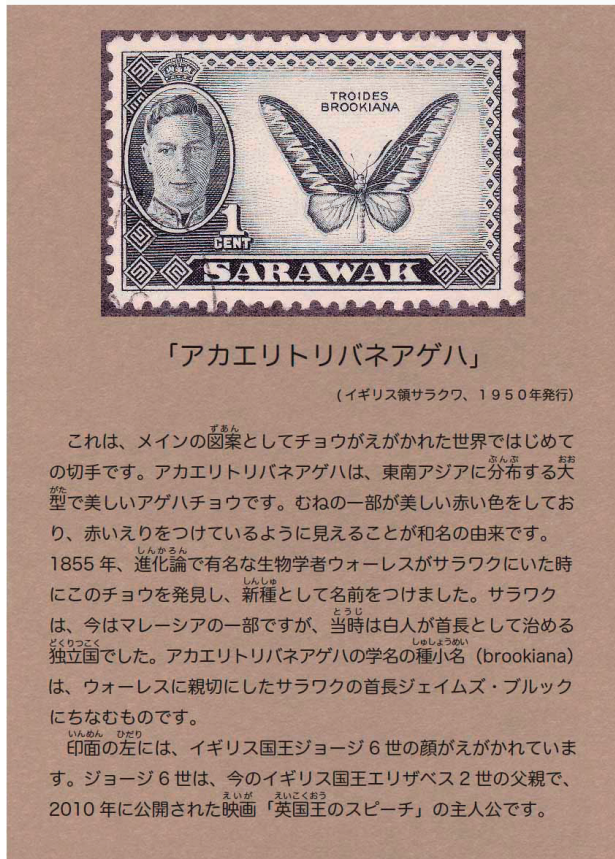


図1 展示用パネルの1例。

展示内容

切手に描かれた動物 20 種に関して、切手の拡大写真と説明文を掲載したパネルと共に動物標本あるいは模型を展示し、必要に応じて関連する絵本も併置した (図 2)。展示に用いた切手と標本は表 1、絵本は表 2 の通りである。表 1 の切手の情報は、島津ら (1986, 1988, 1989) と日本郵趣協会 (2007) に従った。なお、この展示は、無脊椎動物を扱った前期 (4月23日～6月12日、図 3A) と脊椎動物を扱った後期 (6月18日～7月31日、図 3B) に分かれており、6月中旬に展示物を入れ替えた。

20 枚のパネルは、「つよしくんの研究室」の展示什器

壁面に設置した。

動物標本や模型は、展示什器壁面や机部分を利用して展示した。展示した標本は、自然学習センターと兵庫県立人と自然の博物館 (以下、人博) の収蔵品である。その他、鳴き声の音声は NHK クリエイティブライブラリーから、動物の生態写真は姫路市自然観察の森から借用して展示した。

動物標本の展示に際して、以下のような工夫を行なった。貝類 (スイジガイとホネガイ) については、貝の図案部分を写真編集ソフト (Adobe Photoshop) で取り除いた切手画像を黒地の紙に印刷して台を作成し、その上に貝殻標本を置いた。これにより、あたかも切手の貝図案が立体化したかのように見せることができた (図 4A)。カプトガニの乾燥標本については、標本の背面だけでなく腹面の脚なども来館者から見えるようにしたいと考えた。そこで、斜めに傾いた透明プラスチック製の台にカプトガニ標本を載せ、カプトガニ標本の下方に鏡を置いた。その結果、来館者は鏡に写った標本の腹面を見ることが可能となった (図 4B)。このカプトガニ標本の展示は、老若男女問わず人気が高かった。スベスベマンジュウガニの液浸標本については、子供の目線の高さに置き、背景を青色にすることで、液の中の標本が見やすくなるように工夫した (図 4C)。マイマイカブリの乾燥標本については、マイマイカブリの生態を示すために、カタツムリを捕食している様子を表現した標本を一般的な展脚標本と共に展示した (図 4D)。前期の展示期間中、未就学児～小学校低学年児童は、文字情報や切手図案よりも、標本やレプリカ等の立体物に興味を持ち、触りたがる傾向が強く見られた。そこで、後期の展示では、4種の哺乳類 (ニホンザル、ニホンアナグマ *Meles anakuma*、ニホンジカ、イノシシ) について、それらの毛皮と角 (ニホンジカのみ) に直接触れるよう工夫した (図 4E)。これらには、ハンズオン展示としての効果があったと考えられる。モリアオガエルについては、ボタンを押すと鳴き声の音声が流れる装置を設置した (図 4F)。

関連する絵本 18 冊 (前期 8 冊、後期 10 冊) は、自然学習センターの蔵書の中から選出し、机部分を利用して関連するパネルの近くに展示した。選書に際して、生き物の生態が解説されているものを主に選んだ。また、子供になじみ深い民話や昔話、及び教科書に選定されている物語を紹介した。

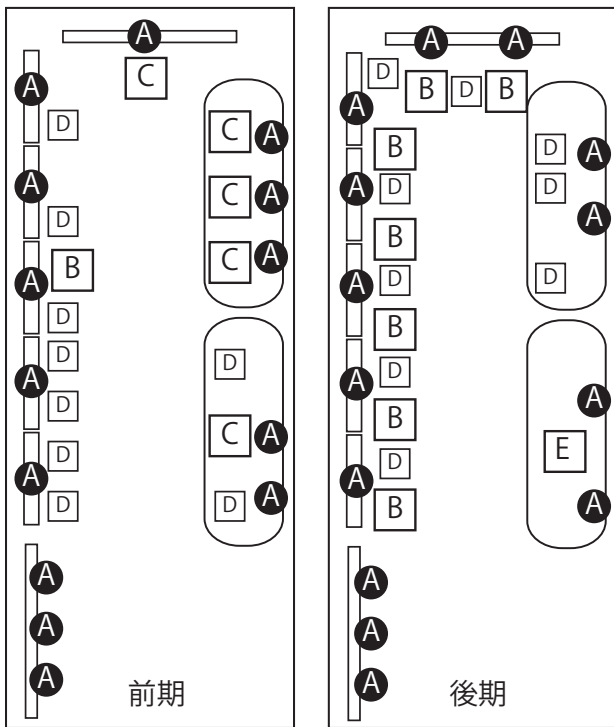
その他、「風景印を押しに行こう」のコーナーを設け、風景印の解説と共に、自然学習センターの近隣にある三田上野郵便局 (三田市三輪) と三田福島郵便局 (三田市福島) の風景印も紹介した (図 5)。風景印とは、郵便局に配備された風景入通信日付印のことである。風景印には、局名・支店名、年月日と共に、当該局近辺の名所

表1 展示に用いた切手と標本.

切手に描かれた動物		標本の種類	切手	
標準和名	学名		発行国・地域	シリーズ名など(発行年)
ホネガイ	<i>Murex pecten</i>	貝殻	モルディブ	貝シリーズ(1975)
スイジガイ	<i>Harpago chiragra</i>	貝殻	琉球	貝シリーズ(1968)
カブトガニ	<i>Tachypleus tridentatus</i>	乾燥標本	日本	自然保護シリーズ第3集(1977)
スベスベマンジュウガニ	<i>Atergatis floridus</i>	液浸標本	モルディブ	甲殻類シリーズ(1978)
キバネツノトンボ	<i>Ascalaphus ramburi</i>	乾燥標本	日本	昆虫シリーズ第5集(1987)
マイマイカブリ	<i>Damaster blaptoides</i>	乾燥標本	日本	昆虫シリーズ第2集(1986)
ギフチョウ	<i>Luehdorfia japonica</i>	乾燥標本	日本	第16回国際昆虫学会議記念(1980)
アカエリトリバネアゲハ	<i>Trogonoptera brookiana</i>	乾燥標本	イギリス領サラワク	普通切手(1950)
ツマベニチョウ	<i>Hebomoia glaucippe</i>	乾燥標本	日本	奄美群島復帰50周年記念(2003)
オオムラサキ	<i>Sasakia charonda</i>	乾燥標本	日本	第2次動植物国宝切手(1956)、新動植物国宝図案切手1966年シリーズ(1966)
モリアオガエル	<i>Rhacophorus arboreus</i>	模型、音声	日本	自然保護シリーズ第3集(1974)
ホトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i>	生態写真、音声	日本	奥の細道シリーズ第2集(1987)
マガン	<i>Anser albifrons</i>	本剥製	日本	郵便切手の歩みシリーズ第6集(1996)
コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	羽	日本	国土緑化運動(1994)
ニホンザル	<i>Macaca fuscata</i>	体毛	日本	近代美術シリーズ第16集(1983)
ネズミ類	Rodentia gen. sp.	アカネズミの本剥製	日本	昔ばなしシリーズ第7集(1973)
ニホンカワウソ	<i>Lutra nippon</i>	模型	日本	自然保護シリーズ第1集(1974)
ヨーロッパアナグマ	<i>Meles meles</i>	ニホンアナグマの体毛	チェコスロバキア	狩猟獣シリーズ(1966)
ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	角、体毛	日本	新動植物国宝図案切手1980年シリーズ(1982)、新動植物国宝図案切手1989年シリーズ(1989)
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	体毛	日本	平成7年(1995年)用年賀切手(1994)

表2 展示に用いた絵本.

書名	著者	出版社
空飛ぶ宝石トンボ	今森光彦	福音館書店
カタツムリ	小池康之(文)・益田辰樹(写真)	あかね書房
ちょうちょはやくこないかな	甲斐信枝	福音館書店
ギフチョウ	青山潤三	あかね書房
こんちゅう	矢島 稔(文)・三芳悌吉(絵)	福音館書店
オオムラサキ	森 一彦	あかね書房
海辺のともだち	松岡達英	偕成社
せかいいちおおきなうち	レオ・レオニ	好学社
ぼくのコレクション 自然の中の宝さがし	盛口 満	福音館書店
わたり鳥のひみつ	行田哲夫	あかね書房
鳥の観察図鑑	国松俊英(文)・藪内正幸(絵)	岩崎書店
シカのくらし	増田辰樹	あかね書房
野や山にすむ動物たち 日本の哺乳類	藪内正幸	岩崎書店
モリアオガエル	増田辰樹	あかね書房
だいじょうぶかしら ねずみくん	五味太郎	偕成社
さるとかに	神沢利子(文)・赤羽末吉(絵)	銀河社
ぼくのコレクション 自然の中の宝さがし	盛口 満	福音館書店
大造じいさんと雁	椋 鳩十(文)・網中いづる(絵)	岩崎書店



- A 切手・印刷物
- B 三田市有馬富士自然学習センター収藏品
- C 人と自然の博物館収藏品
- D 絵本・図鑑
- E 音声・動画

図2 展示の配置図。



図3 展示風景。A, 前期(無脊椎動物に関する展示); B, 後期(脊椎動物に関する展示)。

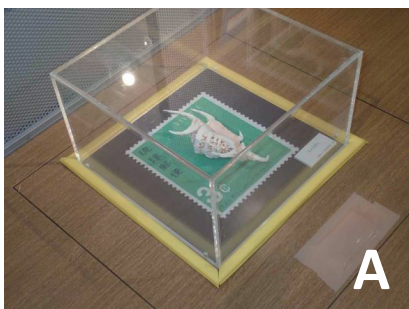


図4 標本等の展示。A, 切手の拡大写真の上に置かれたスジガイの貝殻; B, 鏡を利用して腹面が見ることのできるカプトガニの乾燥標本; C, スバスベマンジュウガニの液浸標本; D, カタツムリを捕食する様子を示したマイマイカブリの乾燥標本; E, 来館者が触れることのできるニホンザルの毛; F, モリアオガエルの鳴き声の音声を開ける装置。

旧跡等にちなむ図柄が描かれている。三田上野郵便局の風景印にはマガモ *Anas platyrhynchos* が、三田福島郵便局の風景印には自然学習センターのミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus* の FRP（繊維強化プラスチック）製遊具「つよしくん」が描かれている。



図5 「風景印を押しに行こう」のコーナー。

付帯事業

【こどもの日特別企画「カブトガニのお面を作ろう！」】

日時：2016年5月5日（祝）、10:00～15:00

場所：展示室4（面積136㎡）

講師：高見咲恵、廣田編子

参加費：100円

参加者：22名

カブトガニは、その名のとおり姿かたちが兜に似ている。そこで、展示されているカブトガニと端午の節句にちなみ、台紙に色を塗って自分だけのオリジナルカブトガニのお面を作るイベントを実施した。まず、カブトガニ標本の背面から写真を撮影し、その写真を元にしてお面の台紙（図6）を作成した。この台紙からお面の形を切り取って参加人数分を用意しておいた。参加者は、講師の指導のもと、お面の台紙に様々な色を塗り、オリジナルカブトガニお面を作製した（図7A）。当初は、直接カブトガニ標本から型紙を作ったカブトガニの実物大の立体バージョンを用意していたが、小学生以下の参加者が多かったため、塗り絵に変更した。制作したお面を用いて、以下のようなカブトガニの雌雄の見分け方を示した：雄では前体部の縁が湾曲しており後体部の棘（縁棘）が6対、雌では前体部の縁が湾曲しておらず後体部の棘が3対。

【オリジナル切手をデザインしよう】

日時：2016年5月7日（土）、8日（日）、10:00～15:00

場所：展示室4（面積136㎡）

講師：高見咲恵、高瀬優子、田丸真奈維

参加費：100円

参加者：32名（7日）、62名（8日）

参加者にA6版の台紙（図8）を配布し、人博から借用した昆虫標本を見ながら、台紙の空欄部分に絵を描いてもらった。それから、それらの絵をスキャナー（EPSON GT-F730）でパソコンへ取り込み、写真編集ソフト（Adobe Photoshop）とグラフィックデザインソフト（Adobe Illustrator）で加工し、切手風シールに仕上げ印刷した。シール印刷したものと原画は、参加者に持ち帰ってもらった。スキャンしたデータは、「切手のいきもの」の期間中に展示スペース壁面に展示した（図7B）。

開催日がゴールデンウィーク中ということもあり、この付帯事業には参加者が集中した。それに加えて、絵をスキャンする場所と加工印刷の場所が離れていたため、切手風シールを制作するにあたって場所の移動に時間がかかり、スタッフの負担が大きかった。

おわりに

以上、切手に描かれた動物と切手を同時に展示したミニ企画展「切手のいきもの」とその付帯事業の実践例の詳細を述べた。今後、類似の展示を実施する方々にとって、この報告が参考になれば幸いである。

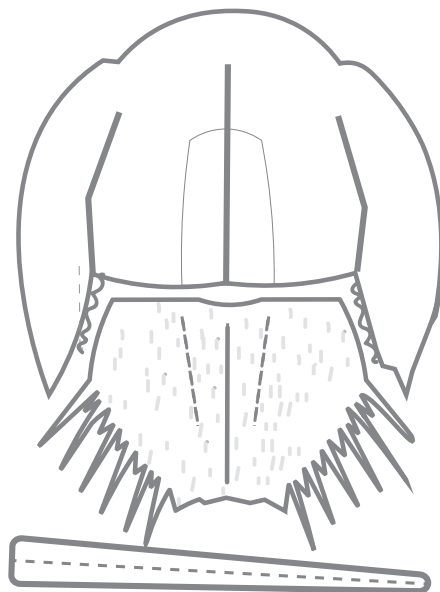


図6 「カブトガニのお面を作ろう！」で使用したお面の台紙。

謝 辞

展示に用いた写真を借用させていただいた姫路市自然観察の森の齊藤充氏と三木敏史氏に厚くお礼申し上げる。この展示事業を実施するにあたり有益な助言をいただいた三田市の梅澤豊和氏、付帯事業「オリジナル切手をデザインしよう」の講師をしていただいた自然学習センターの高瀬優子氏と田丸真奈維氏に厚くお礼申し上げる。また、展示標本の準備でお世話になった人博の三橋弘宗主任研究員と布野隆之研究員、そしてこの展示について取材していただいた神戸新聞社の神谷千晶記者にもお礼申し上げる。

引用文献

- 功力欣三 (1997) 動物. 日本郵趣協会 (編), デザイン別切手収集大百科 テーマチック・コレクション 100. 日本郵趣協会, 東京, pp. 210-213.
- NHK「美の壺」制作班 (編) (2009) NHK 美の壺 切手. NHK 出版, 東京, 70 p.
- 島津安樹朗・朝妻昌彦・荒川好満・功力欣三・倉橋敏一・鈴木瑞男・湯浅浩史 (編) (1986) 世界動物切手図鑑 2. 日本郵趣協会, 東京, pp. 105-232.
- 島津安樹朗・朝妻昌彦・荒川好満・功力欣三・倉橋敏一・鈴木瑞男・湯浅浩史 (編) (1988) 世界動物切手図鑑 4. 日本郵趣協会, 東京, pp. 361-488.
- 島津安樹朗・朝妻昌彦・荒川好満・功力欣三・倉橋敏一・鈴木瑞男・湯浅浩史 (編) (1989) 世界動物切手図鑑 6. 日本郵趣協会, 東京, pp. 617-744.
- 日本郵趣協会 日本切手カタログ小委員会 (監修) (2007) さくら日本切手カタログ 2008 年版. 日本郵趣協会, 東京, 366 p.

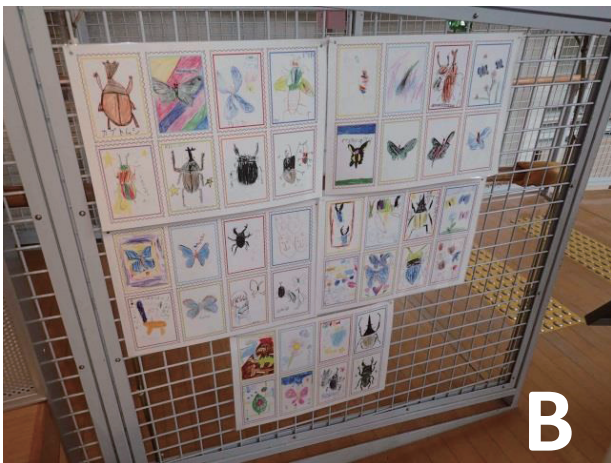


図7 A, 完成したカブトガニのお面; B, 壁面に展示されたオリジナル切手作品。



図8 「オリジナル切手をデザインしよう」で使用した切手風シールシート (空欄になっている上の8個に, 参加者が描いた絵が入る)。

